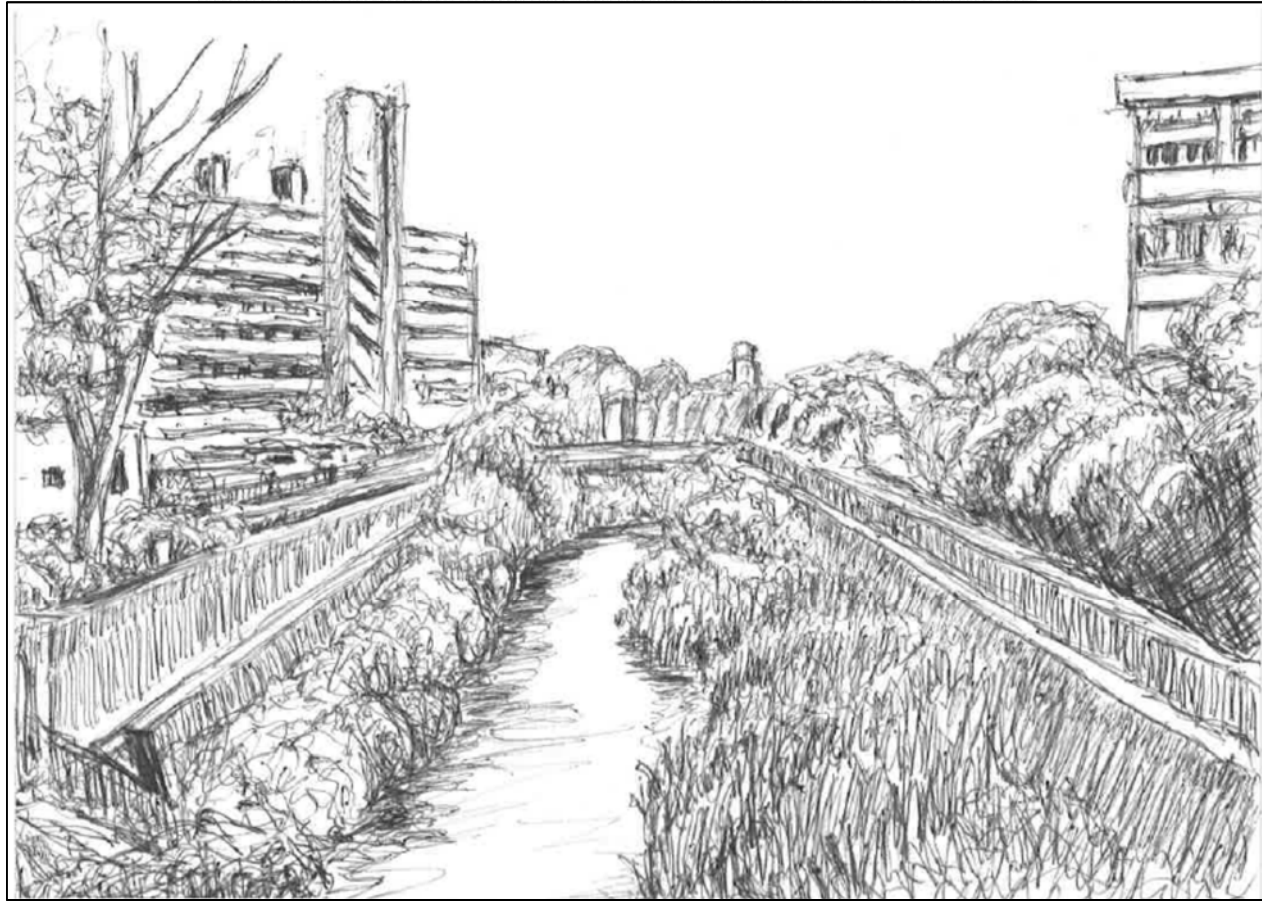


いたちかわらばん

通刊 82 号 鼬川・狹川 / 川原番・瓦版 '19 夏号



【ペン画 宗森英夫】 「花の木橋」より下流を望む

「水溜りのザリガニ釣り」

「ザリガニ釣りをしている…」と言えばかなり多くの人がここを思い出す筈です。いたち川沿いの道で半夏生（ハンゲショウ）が咲いている場所と言えば分かるでしょう。場所は「稻荷森の水辺」です。

半夏生がとぎれるその直ぐ上流側に20㎡程の小さな池があります。この池は本来はトンボのヤゴ池として生まれたものなんだそうですがそこでよく幼児や子供たちが一心不乱にザリガニを釣っているのです。

近くに置いてあるバケツを覗いてみると大体4〜5尾から多い時には10尾近くのザリガニがうごめいています。

釣りと言っても大袈裟なものではなくて、竿とも言えないほどの単なる棒切れの先にありきたりの紐をつけて、釣り針など付けずに餌を紐で括りつけてザリガニが餌を掴んだ状態で釣り上げるだけの漁法なのです。餌はスルメです。

私共のように戦前（昭和20年以前）に生まれた者にとつては、沼や池や川でのザリガニ釣りや魚釣りは日常茶飯なことで遊びの主要なものでしたが、今の子供たちにはこうした遊びは縁遠いものになっているように思われます。

大都会横浜の栄区の川べりの、道端の水溜りみたいな池でザリガニ釣りが出来ると言うのはとても貴重なことだと思います。

幼い日に小さな水溜りにかがみ込んで一心不乱にザリガニを釣った思い出は一生涯消えることなく脳裏に止まることでしょう。こうした子供たちが成人して他郷の人達との思い出を語る時、きつと大いなる優越感をもって語るのではないのでしょうか。

自然とのつながりの大いなる体験を味合わせてくれる小さな水溜りのザリガニ釣りを私たちは大切なものとして保存していきたいものです。

セーフコミュニティ・栄区が誇らしく思う資産の一つとして認識しては如何でしょうか！（ピンテール）

注① （半夏生についてはかわら版第66号、77号参照）
注② （ザリガニ採りについてはかわら版第69号参照）

わくわく いたち川『ひかりかるた』

本郷台小学校4年3組（2018年製作）のご紹介 ②

5年生になってクラスの組替えもあったでしょうね。

お友だち、担任の先生方もお元気のことと思います。

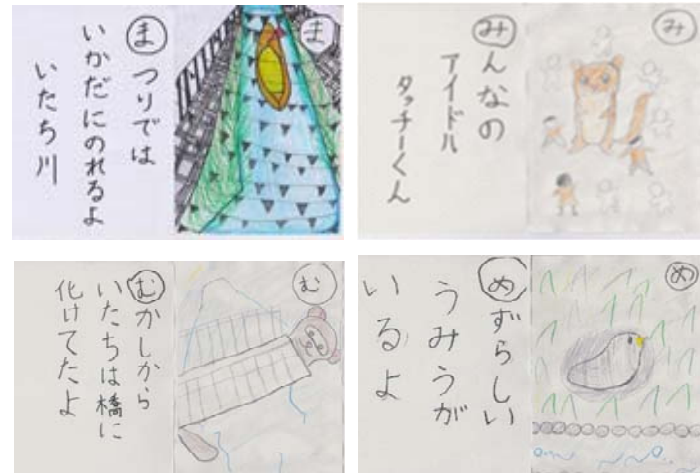
昨年12月「いたちかわらばん80号発刊記念展示会」が栄区役所4階ラウンジタッチーで開催されました。

本郷台小学校の『ひかりかるた』をたくさんの方が見て楽しんでいました。いたち川の魅力を素直にまとめていますね。「栄区を好きになって下さい」と思う皆さんの気持ちがとても良く伝わってきます。ほかの小学校のお友だちの展示も面白かったですね、ありがとうございました。

タッチー君も同じ気持ちだと思います。区役所はどんなところか何をしているところかまた来て知って下さいね。

『ひかりかるた』の㊦㊧㊨㊩の4札をご紹介します。

じっくりと味わってお楽しみ下さい。（うめおきな）



☆いたち川下流ウォーキング☆

“鎌倉街道の起点となったいたち川“

日 時：令和元年10月9日（水）

いたち川の鎌倉時代からの歴史や昭和の海軍燃料廠跡、全国の環境復元河川のモデルとなった経過などの説明を聞きながら、いたち川プロムナードを散歩してみませんか。

10：00（栄区役所）→大いたち川橋→（徒歩）右岸散策→城山橋→警察学校橋→海里橋→花の木橋→新橋→水神橋→左岸を上流向かって区役所に戻ります。

※雨天中止。中止の場合は、前日ご連絡します。 ※内容については、和久井（いたち川 OTASUKE 隊、080 - 3498 - 0552）まで

読者からのたより

いたち川 OTASUKE 隊の皆様へ

昨年度は、子供たちにたくさんのお話をしていただきまして、本当にありがとうございました。おかげさまで、本郷台小学校の子供たちは、いたち川の魅力をたくさん見つけることが出来ました。また、「いたち川かるた」をいたち川瓦版に掲載していただき、子供たちも大変喜んでおりました。今後の掲載も楽しみにしています。 今後も、地域の魅力をいろいろ教えていただければと思っております。これからもご指導のほどよろしくお願い致します。

（本郷台小学校教諭より）

いたち川瓦版を、毎回、楽しみに懐かしく拝読しております。 いたち川への長きにわたる思い入れとその活動には敬服以外のなにものでもありません。私も通勤の道すがら城山橋を渡るのですが必ず川の様子を見ます、やはりいたち川には愛着を感じます。これからも末永いご活躍を期待しております。

（読者より）

昨日はお世話様になりました。ジャケツイバラ満開を見て感動いたしました。その後の新緑のウォーキングコースは参加者全員大変喜んでおりました。

参加者の中には82歳の方が2人いましたが気持ち良く元気で歩くことが出来ました。 おたすけ隊の皆さんの人柄と気配りには感謝しています。

次回も計画があれば是非参加したいと思っております。（ウォーキング参加者より）

持 ち 物：飲み物、雨具

参加人数：20名（先着順）

参加要領：参加希望者は、葉書、メール、FAXで住所・氏名・性別・電話番号を明記の上、令和元年9月11日（水）までに下記に応募して下さい。（当日消印有効）

応 募 先：〒247 - 0005 栄区桂町 303 - 19

（電話）894 - 8161 （FAX）894 - 9127

（アドレス）sa-kikaku@city.yokohama.jp

栄区役所区政推進課企画調整係担当

発行：狹川 OTASUKE 隊（いたちがわおたすけたい）

OTASUKE 隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係

栄土木事務所下水道・公園係

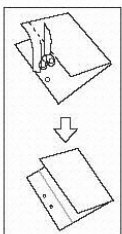
〒247-0005 横浜市栄区桂町 303 - 19
TEL 045 - 894 - 8161 FAX 045 - 894 - 9127

〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-6-1
TEL 045 - 895 - 1411 FAX 045 - 895 - 1421

（お便り・お問い合わせは こちらまで）

発行年月
2019年07月

通刊 82 号



初版「いたち川情報マップ」の紹介 第9弾!!

平成8年(今から22年前)に初版

「いたち川情報マップ」発行!

いたちかわらばん 71号から順次紹介しています



〇いたち川情報マップ(住宅地に隣接部地域)

このマップには、現在の地名や施設の名前などの他に史跡などを記してハイキングを楽しめるコースなどを紹介しています。

自生する植物や生き物のイラストを入れた説明文と保全の大切さを課題として提起しています。マップ中の文章と現在完成している施設を紹介いたします。

ふるさとの川事業区間(日東橋から神戸橋区間)

いたち川「ふるさとの川事業」計画では核心部分に、子供たちでも安心して水遊びが出来、誰もが親水を楽しめる水辺広場が連なる様計画されています。

◇ 稲荷森の水辺広場

青葉橋から下流約200m区間の1haの中に新河川と旧河川に挟まれた中州で形成されています。河道内は自然配慮し生態系の保全や親水性を高め、杭や石等により水流に変化を与え浅瀬や溜まりが出来る構造となっています。水際の保護は玉石を金網に接着させたネット設置して植生が生えて保護されています。民地との境界の段差などはブロック積の上にモルタル吹き付けを行っています。違和感のない様な景観と生物が生息出来る様配慮されています。中州部分には、近在にある樹種(ナラ、クヌギ、ネムなど)を選定して昆虫の食樹となる木が多く植えられています。

◇ 矢沢堀小川アメニティ

「桂台第二調整池」からの水路で465mを暗渠化してその上に造った小川です。水は全て調整池底部から出る湧水で吹き上がる水を利用しています。その水には多くの鉄分が含まれているため上流部にアルミ製の水車を設置して酸化を促進させています。水路沿いには散策路があり野草や水草を觀賞しながら小鳥の笛鳴きや蝶が舞う小川は市民に潤いを与えてくれます。合流部にはコーン型魚道があり遡上する魚を觀察したり、水の動きやせせらぎの音を楽しむことが出来ます。



◇本郷ふじやま公園

中野富士とよび、頂上には富士山の石もある、江戸時代には富士山の信仰が盛んで、お山を望むここは富士講の場だった。また、水の口(みのくち)山と呼ばれ良い水が出る山でした。ふもとには水車もあったと言われています。

◇カワセミ

「チー」あちこちに姿を見せて話題になっているみたい。僕は川辺に留まれる木の枝と、巣をつくれる土の壁がいるんだ。日東橋の下流には、お気に入りの休憩所があるんだ。扇橋の旧河川部の土壁には毎年巣が作られ6月下旬には幼鳥が巣立っていきます。

◇アオバズク

「ホッホッ」このあたりは大きなケヤキの木が多く、木の洞をすみかとする俺たちの声が聴けるよ。稲荷森の水辺の左岸側には河川改修前からのケヤキの木には巣があり古木を保存しています。夜行性なので夕方になると飛んでる姿を見られるかもしれません。

編集後記

史跡の年代については、私達で調査した資料に基づいて書いていますが、今後も内容にご不審な点がありましたらご指摘ご指導をおねがいたします。

83号も引き続き、いたち川情報マップの紹介を継続して中流域を解説いたします。(水・人・子)

【報告】市民の森愛護会・活動団体等の交流会

平成31年3月8日横浜自然観察の森(観察センター)で区内の森に係る活動団体の交流会が開催されました。森の自然を保護していくため、森や自然の大切さを広く区民に伝えることが重要であることから、魅力の発信方法や、森や自然に関わっている活動団体の意見交流を行い、区内の活動団体のつながりを形成、連携を深めることを目的として開催されました。

出席者は、行政(区長、土木事務所、区政推進課、南部公園事務所、環境創造局みどりアップ推進課)、市民の森愛護会(飯島市民の森、上郷市民の森、瀬上市民の森、荒井沢市民の森、鍛冶ヶ谷市民の森)、上郷・森の会、瀬上さとやまの会、本郷ふじやま公園運営委員会、横浜自然観察の森友の会、いたち川 OTASUKE 隊、その他(タウンニュース新聞社)、参加者合計30名。

◎区長から、栄区の緑被率が40%で市内でも上位であり、栄区ならではの魅力づくりができると考えていること、31年度は、各森を水源とするいたち川の魅力を支え、31年度は、各森を水源とするいたち川の魅力を支え、伝えるとともに、市民の森の方々と連携していきたい、という話がありました。

◎市民の森愛護会からは、活動報告と樹林地の管理計画などの報告がありました。

愛護会の運営については、各々の愛護会によって会員層の特徴から平日活動と休日活動を分けて多くの年齢層が出来る活動をしている団体や特技を持った方によって得意の分野別に活動をしている報告がありました。また、共通している悩みは会員が高齢化してメンバーが減少していることで、各団体がPR活動として数か月に発行している広報誌の配布に限界があるということも、今後の課題です。

特定外来生物のリス、アライグマの被害について報告があり、樹木の皮を剥いで枯らす、作物を食い荒らすなどがあり、捕獲駆除に関して行政から捕獲許可証、罠の貸し出し、処分方法などの説明がありました。罠の設置に関しては動物愛護の観点から毎日の見回りが貸し出しの条件であるとの説明がありました。

◎栄区政推進課からは、平成30年度のPR事業の説明としてイベントの紹介と今年度の予定として新聞掲載、フォトコンテスト、自然体験教室、区民祭りなど参加型イベントについて説明がありました。

*横浜自然観察の森を友の会の方の案内で散策し、ヘイケホタルの池では、山アカガエルの子を見ることが出来ました。卵はアライグマや鳥に食べられますが特に困いをしない等、自然保護の難しさの説明を聞きました。

ピクニック広場では、小鳥の観察や絶滅危惧植物の話聞くことが出来ました。

作業小屋では、友の会の各プロジェクトの担当の方から活動の説明がありました。(水・人・子)



ヘイケホタル池